

仕事の窓 6

運輸部

外国船舶の係船作業の安全対策キャンペーン

～係船索破断による死亡事故の再発防止を！～

平成21年3月20日に神戸港のコンテナバースで係船ロープの破断により網取作業員2名の死亡事故が発生しました。事故発生後7年目をむかえた現在も、依然として破断事故が発生していることから、改めて事故の重大さを再認識し、再発防止に向けた安全対策の強化を図る目的で、2月29日から3月4日までの5日間、全国一斉にキャンペーンを実施しました。



PSC実施中の様子（係船機）

運輸部外国船舶監督官は、寄港した外国船舶に対し海上における人命の安全や海洋環境の保全を図るため、船舶の構造設備、海洋汚染防止に係る措置、乗組員の資格要件や労働条件について国際条約に適合しているか検査（ポートステートコントロール：PSC）を実施しています。

今回のキャンペーン期間中にPSCを実施した外国船舶については、係船索及び係船設備に関して重点的に確認するとともに、英語版のリーフレットを配布し、係船設備の整備状況や危険性の認識その他関連項目について、乗組員に対してインタビューすることで係

船索の安全な使用について注意喚起を行いました。

係船作業時に発生する破断・挟まれ事故は、係船索の保守点検不足や係船作業計画などの措置が十分にとられていないことや、乗組員と陸上作業員とのコミュニケーション不足が要因と考えられています。係船索が破断した時にはスナップバック（跳ね返り現象）が引き起こり、時には鉄板も変形させる衝撃となることもあります。神戸での網取作業員2名の死亡事故は、スナップバックの危険性について認識がなくスナップバックの危険範囲内で網取り作業を行っていたため発生したものと考えられています。

配布したリーフレットは、スナップバックの危険性を周知するとともに事故を回避する方法を提供することを目的に作成しています。PSCを受けた外国船舶の乗組員は、リーフレットの死亡事故の記事に強い関心を示し、真剣な表情で説明を受けていました。

また、2月19日に開催された「那覇港・金武中城港外国船舶安全対策連絡協議会」においては、陸上作業員として係船作業に携わる船舶代理店に対して、本キャンペーンの趣旨と作業時の安全対策につい

て周知・説明を行いました。

キャンペーン終了後も係船索の安全対策について周知するとともに、海上における人命の安全、海洋環境の保全及び海洋汚染防止業務に取り組んでまいります。

係船作業中の事故防止

国内の港湾に入港した外国船に対する係船作業安全キャンペーン

2006年3月20日神戸ポートアイランドコンテナターミナルにおいて悲しい事故が起きました。それは入港後の係船作業を行っていたときに係船ロープに起因して発生しました。最初の船首側スプリングラインを取った後、2名の網取り作業員が次のスプリングラインのビーディングラインを受け取ろうとしていました。この間に、本船がまだ岸壁のフンダーに接触しておらず動いていたために最初のスプリングラインが緊張状態となり、突如、破断しました。切れた反動でコンテナターミナル側へ振り戻ったロープは網取り作業員を直撃し、結果として20代の作業員2名の命が失われました。これは係船作業中に発生した事故の一事例にすぎません。

毎日、数千の係船作業が港内で行われています。それらは専門の作業員により事故が発生することなく安全に行われています。しかしながら、係船作業は高い危険性を伴います。正しい手順を踏まないで災害につながるのです。安全な係船作業を行うために、私たちは国内に入港した船舶に対して、以下のチェックリストに掲げる項目に注意を払うよう喚起します。このリーフレットの目的は、係船作業における事故を回避する方法を提供することです。

連絡先：
内閣府沖縄総合事務局 運輸部
外国船舶監督官（Tel 098-866-1839）
（住所）那覇市おもろまち3-1-1



係船索で船を岸壁に固定

スナップバックとは？

係船索が異常に張った状態で破断した時、その係留索が瞬時に跳ね返ってくる状態をいう。

その破壊力は破断した索に掛かっていた荷重の1.7倍にもなり、人身に当たれば、人命にかかわる大惨事となる。



痛みが激しい係船索

キャンペーンリーフレット